

# 千鳥ヶ淵より

2009.04.10

何も知らなくていいから  
どうぞ いらっしやい。

桜に、会いに。  
わたしたちに、会いに。

あれから ずいぶん 経ちました。

いいんですよ、知らなくて。  
それは あなたのせいではない。

ただ 寂しくて。  
痛む傷が 悲しくて。

せめて あなたに ここへ来てほしくて、  
桜の花を 咲かせました。

ほら、きれいでしょう？

あなたは 笑う。  
桜に 微笑う。

あの日のように。

あなたの その笑顔が 好きだった。

なにも 覚えていなくていいから  
どうぞ いらっしやい。

桜を 愛でに、いらっしやい。

大丈夫。

あなたの記憶も、  
わたしが 大切に 抱いていますから。

あの日のままに。

あの朝  
あなたは 泣いていた。

征くわたしを 見送ると  
崩れおちて 泣いていた。

だけど  
あなたが こちら側へ やってきたのも  
あれから まもなくでしたね。

わたしは あなたを 守ることが できなかった。

あれから どれくらい 経ちましたか？

そうですか。  
64年になりますか。

すっかり変わった この世界へ  
あなたは もう一度 やってきた。

わたしは、まだ眠っています。  
あの日のままに。

なにも 思い出さなくていいから  
どうぞ いらっしやい。

あなたの笑顔が見たいから。

今度は 幸せになりましたか？

涙も 怒りも 後悔も  
あの場所に 封じ込めて。

ここへ戻ってきて よかったですか？

わたしは、ええ、幸せですよ。  
ここで あなたに また 会えた。

待っていた甲斐がありました。

風が吹いてきましたね。  
寒くは ないですか？

来年も また、ここで 会いましょう。

再来年も、その次の年も。  
あなたが この旅を 終えるまで。

今回は わたしが あなたを 見送りますね。  
この場所から。

いいんです。  
たとえ あなたが 気づかなくとも。

だけど。

この次は、また  
一緒に 戻ってきましょう。

この場所へ。

約束ですよ？

なにも知らなくていいから  
どうぞ いらっしやい。

桜が  
わたしたちの目印です。

